



2学期は力をためよ

今年の夏は、猛暑というより、激暑。過去に経験したことのないような暑さが続いています。さて、今日より、子どもたちは学校での学びを再開しました。

本日の2学期始業式では、次のような話をしました。「2学期は力をためよ」です。人には、それぞれ「努力の壺」というものがあります。その壺の大きさは人それぞれで、自分の壺がどのくらいの大きさかはわかりません。そして、その壺の中に、毎日、毎日、柄杓（ひしゃく）で努力という水を入れていきます。その壺から水があふれだした時が目標達成であり、その人の壺の大きさが分かります。ただ、壺の大きさも、その壺に今、どのくらい水が溜まっているのかは、自分にはわかりません。つまり、あと1滴で目標が達成できるところまで来ているかもしれないのに、努力の水を入れることをあきらめると、水はあふれません。あきらめたら終わりということです。しかし、地道に努力を重ねていると、いつかあふれる時が来るということです。努力は確実に溜まるのです。

「こんなにがんばっているのに結果が出ない。報われない。」と思ったことはありませんか？もしかしたら、あと1歩のところまで水はたまっているかもしれないのです。いつあふれるかはわからないけれど、努力の水を入れ続けることが大切なのです。あきらめずに努力を続けることが大切なのです。

努力をしたことは、すぐには成果として見えないかもしれないけれど、着実に1つずつ努力を続けてほしいということを子どもたちに伝えました。2学期は、学習やさまざまな行事に、全力で取り組み、自分なりの努力を重ね成長してほしいと思います。子どもたちのそれぞれの壺から、いつか水があふれだしますようお願いしています。

